

☆☆ 27年度 新任事務長の想い ☆☆

今年度昇任の新任事務長4名に、想いを綴ってもらいました。管理職としての覚悟であったり、迷いであったり、リーダーとして各支援室の室員を育てていくような決意が表れています。皆さん、しっかりとした考え方を持っていることを喜ばしく感じています。4名の構成は、男性1名、女性3名の新任事務長です。特に、事務長会としても女性管理職の増加を歓迎しています。女性事務長さん、事務長会に新しい風を吹かしてください。

今年度は、管理職事務長として大きく成長するための大切な1年目です。事務長としてのリアリティショックをのり越え、大いに悩み、大いにビジョンを語りましょう。事務長会としても皆さんに協力していきます。佐賀県の学校教育及び若手事務職員成長のためにも、一緒に頑張っていきましょう。

佐賀県公立小中学校事務長会 会長 古川 治

~~~~杵西地域 武雄市第3学校運営支援室長 武富雄一郎(山内中 事務長)~~~~

新任事務長として武雄市第3学校運営支援室長の命を受け、あっという間に4ヵ月が経過しました。私の場合、幸いなことに同一校昇任ということで勤務環境の変化が少なかったということ、支援室のメンバーの変動も少なかったこと、昨年度一年間は事務長との二人配置だったため目の前でその仕事ぶりを見ることができたということ、そして支援室に有能な事務主任や室員がいるということである面でもとても恵まれたスタートだったのかも知れません。しかし、やはり事務長という立場への戸惑い、そして新採職員を部下として持つことになったことへの不安、円滑な支援室運営が出来るかという心配等、いろんな思いがいつも頭の中を巡っている状態です。でも、逆に言えばそれこそが管理職になったという証なのだと思います。先輩事務長の方々に比べれば経験年数も少なく、私のような者がこれから本当に事務長として務まるのか甚だ疑問ではありますが、任命されたからにはもう逃げられません。やるしかない!!という気持ちで頑張りたいと思っています。

さて、武雄市第3学校運営支援室は事務長1名、事務主任1名、主査2名、副主査1名、主事1名、臨任1名の7名で構成されており、原則的に月2回の支援室活動を行っています。特徴的な取り組みとしては教科書給与事務が挙げられます。他の支援室でも取り組まれているところはあるようですが、県内でもまだ少ない方ではないでしょうか。各学校、教務主任や教科書担当の教員がこの業務を受け持っているところが多いと思いますが、それを事務職員が受け持つことにより教員の事務負担軽減に繋がります。また教科書についての知識を習得することにもなり、このことは佐賀県版学校事務のブランドデザインのキーワードにもなっている「教育理解」にも繋がると考えてい



ます。ただし、間違いの許されない非常に神経を使う業務でもありますので、支援室の中でしっかり研鑽を積み、全員が正確な事務を遂行できるようにしていきたいと思っています。

もう一つの特徴的な取り組みとして施設の共同点検が挙げられます。毎年、夏季休業中に各学校を巡り、室員全員の目で危険箇所や工事修繕要望箇所をチェックし、採点方式で評価します。都合が合えば市教委の施設担当者にも随行してもらいます。複数の目で見ることにより、他の室員からの確かなアドバイスをもらえたり、市教委施設担当者からは各分野で精通している業者を教えてもらえたり、自分一人では思いつかなかった対応策を得られたりします。また高額になりそうな箇所については来年度予算要求に提出します。この取り組みは白石町で実施されているものを参考にして数年前から実施しています。

私が、今年度の目標として掲げているキーワードは「継続と定着」です。上に挙げたような成果の大きい取り組みを改善しながら今年度も継続し、しっかり定着させることが大事だと思っています。新しい取り組みへのチャレンジも必要ですが、やみくもに業務を増やすことは業務効率を落とすことになり、共同実施の本来の目的が損なわれてしまいます。新採をはじめとして数名の若年経験者がいる中でまずはしっかり基礎固めをすることが重要です。そして、室員全員が出来るだけ高いレベルで平準化することが理想だと思っています。そのためにも、私より年上で経験豊富であり、人柄も良く他の室員からの信頼も厚い有能な、事務主任（副室長）を活用することで、より円滑な支援室運営が可能となると思うので、連携を取りながらより良い支援室運営を目指したいと思っています。



~~~~佐城西部地域 多久市学校運営支援室長 塚本 直美（多久東部中 事務長）~~~~



事務長になって、5ヶ月が経とうとしています。今回の異動で初めて管外に出て、「新任事務長で、また知らない土地でもあり、とても不安でした・・・」と赴任の挨拶をしていましたが、徐々に管理職事務長としての重責を感じ、気が引き締まる思いがしているこの頃です。

事務主幹という立場での支援室長は2度経験していて、とくに昨年度は、主査、副主査、主事各1名の事務職員で構成された支援室の室長として、東松浦郡玄海町の4校の閉校と小中一貫校に向けての引っ越し作業等を町教委と連携を取り、室員と意見を交わしながら支援室を運営してきました。3月31日、職員の異動事務と引っ越し作業をどうにか終え、事務室を掃除して自分の荷物を車に乗せ、夜の11時過ぎ「これではまるで夜逃げのようだ・・・」と思いながら、外灯に照らされた玄海みらい学園の新校舎に別れを惜しみ、浜野浦の棚田を通過して帰路につきました。偶然にも今回、小中一貫校3年目にあたる多久市に勤務することになり、校舎建築や備品の配置等比べながら、室長として校舎建築という場数を踏んでいない分、積極的に先進校視察等をおこなって情報収集をすべきだったと反省した次第でした。

事務長として初めて取り組んだ多久市共同実施協議会では、今年度の目標に沿った具体的な取り組みについて説明し、同日午後の支援室会議



では、さっそくそれぞれの取り組みについて、リーダーを決め進めてもらうことを提案しました。支援室内の事務職員は、県立高校との交流3年目の新任事務主任、事務主幹3名、採用3年目の主事1名で構成されており、さらに多久市内に統括事務長も在籍している状況で、それぞれの事務職員がこれまで培った豊富な知識と経験を支援室で十分に発揮できるよう、それぞれの特性を活かしていくことが事務長の力量であり、今年度の重要な課題だと考えています。



多久市は、全校が同時に小中一貫校となっており、3つの事務室の取り組むべき方向がそろって事務長としては恵まれた環境の中ではありますが、事務長加配がないため小学部の事務主幹に助けをもらいながら日々の業務をこなしている状況です。また先日、どちらかといえば無口な事務職員が多い中、新任事務長研（教育センター研 講師古川統括事務長）での研修を活用して、「小中一貫校の事務室だからできること」について、各校の事務室（県費事務職員ほか事務補・司書・業務員等の市職）でワークショップを行ってもらい、支援室内でも情報交換し、それぞれの事務室で新たにに取り組むべき課題を見つけてもらっています。それぞれの事務室が学校運営を支える組織となるために、事務長として支援していきたいと考えています。

~~~~~東松地域 西部第二学校運営支援室長 井上 浩子（肥前中 事務長）~~~~~

新任事務長になって約4カ月が経過しました。現在の心境は、「息つく暇もなく過ぎていったなあ」という感じです。辞令交付式に始まり、赴任式、新任事務長研修会、管内教頭・事務長研修会等新しい環境の中、新しい事ばかりで戸惑いも多々ありましたが、現在の想いを大きく3つ書かせていただきます。

1、わたしが衝撃を受けたこと！

恥ずかしながら、事務職員生活24年間で県外出張に行ったのは、平成10年の中教審答申後の全事研宮崎大会（もしかして宮事研だったかもしれません・・・）1回のみでした。その時の私は、周りが「すごい！今までにないことだ！学校事務の幕開けだ！」などと言われていましたが、実は、なんのことかわからなかったのを覚えています。

あれから17年。時は流れ、佐賀県の学校事務も随分変わりました。しかし、本音を言うとなかなか変わらない自分がいて、外面の自分と内面の自分との葛藤もあったことは確かです。

そんな中、衝撃を受けた出来事があります。今年2月に受けたつくばの「マネジメント指導者研修」です。先ほども書いたように、私は、県外研修には1回のみでどこにも行ったことがありませんでした。1人でつく

ばに行くことに不安でいっぱいでしたが、行ってみてびっくり！昇給昇格・諸手当認定・給与事務等の事務の話は一切なく、「将来グローバル化、少子高齢化に向け、どんな日本人を育成していくか。」「外国人から使われる日本人になるのか？日本人が主導権を持つのか？」「日本の人口が減っていく危機的状態の中で、幼・小・中・高・大学はどんな教育が必要になってくるのかを今から考え、将来に向けて教育界全体で変わっていかなければならない。そのために学習指導要領が大きく変わる。」ということ学びました。



それは私にとって衝撃的でした。私は、事務職員であって教員ではないので、学習指導要領がどういう意図があって変わっていているのかは気にもしなかったのです。私は、一言一句聞き逃すまいと必死でノートに記入し、持ち帰りました。

私たち学校事務職員は、給与や諸手当の研修を受け、事務能力を高めるのが自分達の研修だと思い込んでるように思えますが、本当に必要なことは、国がどのような考えで教育を行っていかようとしているのかを知り、時代に合わせた事務のあり方を変えていく柔軟さを持ち合わせていくことではないかと思いました。

2、共同実施はおもしろい！！

次にお話したいことは、現在所属している共同事務室(唐津市では運営室とは言わず共同事務室といいます)についてです。私が所属している共同事務室は、佐賀県及び唐津地区で最も西方にあり、特色としては、事務



職員も校長先生も他地区の方が多くということです。特に事務職員は他地区出身の若手が多く、9名中4名が他地区出身です。

4月、新しい共同事務室であいさつを行い、共同実施協議会へ向けた資料を含め1年間の共同実施の提案を行いました。その時の反応は・・・です。つまり、受け入れてもらえなかったのです。

二度・三度書き直しを行い、ようやく了解してもらい、なんとか協議会を行うことができました。私としては初めての事務長で室長です。これから先どう運営していけばいいのか、私にできるのか不安でいっぱいでした。

ところが、6月になってある室員から、「共同実施が固いです。もっと自由に発言ができるように変えていきましょう。」と言われました。「どのようにしたらいいかな？」と聞くと、「書類を見ての研修だとみんなが下を向いてしまいます。ホワイトボードを使用し、発表は、プレゼン方式でいきましょう。そうすることで、みんなが同じ目線で、同じ課題に向けて研修できるようになりますよ。」と言われました。それからこの若手事務職員は「これから先、私たちも事務長になっていきます。プレゼンくらいできないといけませんからね。」とニコリ。なるほどと思いました。共同実施が始まって、共同実施以前を知らない事務職員がたくさんできています。『昔はこうだったとか、事務職員はこうあるべきだ』と型にはまった考えではなく、先を見越した事務のあり方＝共同実施のあり方を室員と共に考えていくべきだと思いました。ふと学校現場を見ても、昨年まであまり聞かなかった「アクティブ・ラーニング」という言葉が、至る所であたりまえのように交わされています。これからの教育は教師が教壇に立って一斉に授業を行うのではなく、児童生徒一人一人が問題解決に向けて情報収集を行い、膨大な情報の中から一番必要な情報を精査し、自分のものとして発表していく。そうした教育へと変わっていています。このような時代の変化の中で、必然的に事務職員も変わっていかねばならないのだと感じました。

とにかく、うちの共同実施はおもしろいです。もちろんホワイトボードに書き込んだり、提案する人は拡大印刷して来たり、業務改善に向けてブレインストーミングやKJ法を行ったりと、それこそ「アクティブ・ラーニング」しています。

「共同実施とはなんだろうか」と考えました。つまり、今ある課題を出し合い、みんなで課題を共有し、みんなで課題を解決していくことだと思いました。そうすることで自分のものとなり、自信となって、いろいろ



な課題にチャレンジできるようになります。今年度末の共同実施協議会は今までと違いプレゼン方式でやってみようかと思っています。とっても楽しみです。

3、事務効率化研究班について

私は、唐津市事務効率化研究班の班員でもあります。事務効率化班の目的は、「**市教委と連携し、学校に関わる事務全般についてシステムを再構築することや、共通する事務処理を集中処理することにより効率化をはかり、市教委、学校、共同事務室の事務負担軽減を目指す。**」です。つまり、共同実施の目的の一つである「事務の効率化」を行うためには、教育委員会と学校と共同事務室が連携し、再構築を行っていくことが必要ではないかと考えています。

また、各共同事務室では行えないプログラムの開発や、日々発送されてくる文書のデータ管理、各種マニュアルの作成、最新版の様式等を提供することで、各学校の事務の効率化を目指しています。



佐賀県の共同実施は、「学校にいてこそ学校事務職員」が前提でありセンター化は考えていないと聞きました。もちろん学校にいての事務職員が一番よいのだと思います。しかし、学校にいての事務職員のマイナス点もあれば事務センターのよいところもあると思います。私たち

は、学校にいてこそ学校事務職員という固定概念を少し変えて、違う角度で見てもよいのではないかと

思います。

事務効率化研究班の詳しい情報が知りたい方は、全事研熊本大会佐賀分科会の唐津地区発表をご覧ください。ある若手事務職員が微笑ましく書いています。今までやってきてよかったと実感できるレポートで大変うれしくなりました。

自分の思うままに書かせていただきましたが、私は、「室員主体の共同実施を行い、室員の意欲を高めていくこと」が事務長の役目だと思っています。そのためには、事務長として共同事務室内の校長先生と信頼関係を築くと共に、なかなか見えてこない共同実施をアピールし、成果を全職員で共有できるようになりたいと思っています。また、事務効率化班員として唐津地区全体の共同実施をつなげる役目ができたらいいなと思っています。

~~~~~**藤津地域 太良町学校運営支援室長 田崎 利恵子**  
**(大浦中 事務長)**~~~~~

皆さんこんにちは。今年度から小中学校事務長会の仲間入りをしました太良町学校運営支援室の田崎利恵子です。

同一校での昇任ということで、異動と同時に事務長になられた方よりも4月の負担は少なかったかもしれませんが、慣れない室長・事務長の業務で1学期が瞬く間に過ぎ、夏休みに入ったものの未だ何となく落ち着かない日々を送っています。

平成3年に採用されて以来、義務制の学校の経験しかなく、取り立てて研修歴もない私が「事務長となり支援室を運営していけるのだろうか」という不安はまだまだぬぐえそうにありませんが、今年度採用された事務長は、偶然にも4人中女性が3人で、しかも同じ平成3年度採用と聞いて少し気持ちがほっとしました。(勝手にですが……)

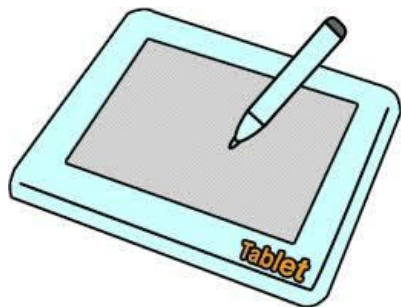
できれば、採用一元化になった今こそ、経験のある程度積んだ事務職員は、若手の事務職員を育成するため、学



校事務という仕事の特殊性を維持するため、誰もが事務長試験を受験し、事務長になっていくような雰囲気が醸成されたと願っています。そのためには私達事務長が、日々の仕事に充実感を持ち先輩に学びながら生き生きと職務を遂行することが大切だと思っています。

今回、新任事務長の思いを綴るにあたって何から書こうかと思ひめぐねましたが、少し私が所属する太良町学校運営支援室のPRをしたいと思っています。

構成員は5名で、私（50代）、40代男性事務主任、20代女性主事（行政との交流）、20代女性主事（臨任）が2名です。若くて経験の浅い職員が多いのですが、その分エネルギーに溢れ支援室会議でも活発な意見が飛び交



います。今年度、町内中学校2校に学習用端末（タブレットPC）を導入するため、太良町が「学習用パソコン機種選定検討委員会」を立ち上げました。学校運営支援室は各校のICT推進リーダーとともに選定委員会のメンバーとなり、主体的に購入の機種やソフトウェアの選定、無線LANの整備等で学校現場の要望と教委の予算とのすり合わせを行いました。その会議の中では、各室員がそれぞれに6月に行われた教育フェスタに赴き、タブレットPCの利活用

状況や無線LAN整備状況を丹念に調べた情報を積極的に提供し、事前に学校でアンケートをとるなどして学校内の意見を吸い上げて、検討委員会の中で現場の要望を反映させることが出来ました。その結果、教員が利活用しやすい機種・ソフトの選定が出来、満足度の高い導入に繋がりました。また、決まった予算内でより費用対効果が高い導入ができたのは、教育委員会にとっても大きなメリットだったと思います。このように、若い事務職員でも校内の要望を大きな予算に反映して学校運営に寄与することが出来たことは、個人のやりがいとモチベーションの向上に繋がったのではと感じています。もちろん、今まで太良町に勤務された先輩方が太良町教育委員会と強い信頼関係を築いてこられたおかげだと大変感謝しています。

5名という小さな単位の支援室ですが、このようにお互い忌憚のない意見を出し合いながら業務を遂行し結果的にOJTに繋がることを目的としています。以前、学校に一人配置で組織として活動することがなかった学校事務職員は、共同実施により過去のことになりつつあると感じています。今の私の大きな仕事としては、風通しのよい学校運営支援室にすること、最後の責任は事務長が取ると思っています。支援室内の事務職員が安心して仕事出来るよう細心の注意を払いながら、この事務長としての初年度を過ごしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いします。



~~~~~編集後記~~~~~

4名の新任事務長には、快く原稿依頼を受けて頂きありがとうございました。事務長としてのやる気がとても強く伝わってきました。これからもよろしくお願いします。

幾分紙面が残りましたので、事務局の宣伝をしたいと思っています。現在、前事務局長の協力で会報の制作をしています。協力できる方を募集しています。よろしくお願いします。

私はメリハリを付けて仕事をするのが大事だと思っています。思い切って休みを取ってはいかがですか。新たな気持ちで業務をすれば新しいものが見えてくることもあるかも。

お互い頑張りましょう！！

(多良)

